

早期診断で早期回復

青少年のスポーツ外傷、障害



■サッカー少年に多い「オスグット病」

まずサッカーに限らずスポーツ医学上、「スポーツ外傷」と「スポーツ障害」の2種類がある。前者はスポーツ中、身体に外部から力がかかることにより起こる「けが」。後者は繰り返し身体のある部位が酷使される

「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」とい

「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」とい

「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」とい

「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」とい

「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」とい

「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」とい

「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」とい



20日、天皇杯2回戦にチームの一員として参加した瀬戸嶋政勝医師(筑波学園)に聞く

流経大サッカー部をサポート

瀬戸嶋政勝医師(筑波学園)に聞く

手と腕以外なら、体のどこを使っても良いとされるサッカー。そうした特性故に、試合や練習中に起こるけがは、さまざま。2005年から公式に龍ヶ崎市の流通経済大(流経大)サッカー部チームドクターを務めている瀬戸嶋政勝氏は医療面から、同部の成長を支えてきた一人だ。今の青少年サッカーを同じ氏はどう考えているか。現在のサッカー医療事情について話を聞いた。(大村寛)

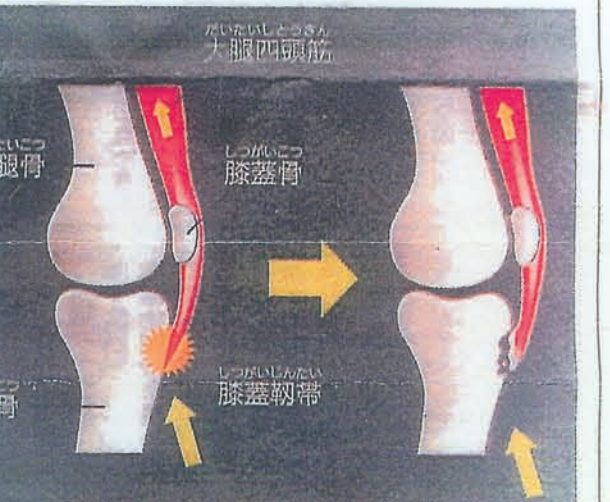
「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」とい

「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」とい

オスグット病

【症状・経過】 小学校高学年から中学生の発育期のスポーツ少年に起こる成長期障害。サッカー、バスケットボール、バレーボールなど飛んだり跳ねたり、膝の折り曲げの繰り返しによって発生する。成長期の代表的な病気である。

【治療】 太もも(大腿四頭筋)を伸ばすストレッチや、皿の周囲を氷で冷やすマッサージなどを行う。



【オスグット病の病態】 太ももの前の筋肉(大腿四頭筋)の脛骨との付着部が脛骨と剥離(はくり)することによって痛む

DF宇智神選手が相手のひじを受けて目の上を傷付いた際に応急処置を施した。後半30分にもGK増田選手がゴール前の混戦で相手と接触しあごを負傷。医療用ホチキスで傷口を塞(ふさ)ぐ応急処置を施した。

常陽新聞

発行所 常陽新聞新社
本社 〒300-0051 土浦市真鍋2-7-6
電話 029-821-178000
FAX 029-822-6743
水戸支社 〒310-0852 水戸市笠原町1050-1
電話 029-244-642000
FAX 029-244-6474
東京支社 〒104-0061 中央区銀座8-10-8 銀座8丁目ビル4階C-2
電話 03-6252-1547
FAX 03-6252-1534

©常陽新聞新社 2008

製紙時代をリードする!

兵庫製紙株式会社

代表取締役社長 井川尚武
兵庫県姫路市豊富町豊富三二八八
電話 079-2641-1111(2線)

きょうの紙面

http://www.joyo-net.com

7	7	6	5	5	5
7	7	6	5	5	5

土浦市民野球シエニオンV
水戸、徳島に2-0で快勝
土浦二弓道男女とも団体V
高萩で下君田のささら奉納
視覚障害者と作家のコラボ
自殺の動機「健康」と「経済」

7 リーグ快進撃の市民チーム

つくば市をホームタウンに県内3番目のリーグ入りを目指す市民クラブチーム、スルティーパーつくばが、県社会人リーグで進撃。「つくば市にプロサッカーをつくる」の立見康弘会長(39)が「地域活性化にもなる」と下支えのため奮闘している。

20日、天皇杯2回戦の試合後あごを切ったGK増田の応急処置を施す瀬戸嶋医師(筑波学園)＝同

20日、天皇杯2回戦の試合後あごを切ったGK増田の応急処置を施す瀬戸嶋医師(筑波学園)＝同

「高校以降になると、スポーツ外傷が多くなる。足関節ねんざや肉離れ、特にひざのじん帯損傷など」

この年代になると成長が止まることもあり、激しいタックルなどでどうしても外傷が多くなる。だが、早期診断が早い回復につながることに変わりはない。

「ピッチで応急処置をするのとはないので、その後の治療経過に大きな差が出ることも多い。また自己流は禁物。骨折やじん帯断裂を単なる打撲やねんざだと勝手に判断し、放置してしまったりはかりに復帰が遅れてしまったケースも過去に多くある」と同氏。